

OPINION

中部経済新聞

ナビゲーター

この10年間は、世界と世界の住人に対して、多くの変化と課題をもたらした。2008年から09年にかけてアメリカで始まった金融危機の後、私たちは大きな影響を受け、復旧に数年を要した。ルーマニアは07年1月1日にEU(欧州連合)に加盟したばかりであった。海外からの直接投資、EU予算から拠出される補助金である結束基金、そして国内産業の再編成によってもたらされたチャンスは、外部からの影響を大幅に減らし、大いなる前進を遂げた。

この数年は世界全体、とくに

日本への期待 世界各地から

其
90

に欧州に新たな課題をもたらした。それから重要なものを要約してみる。

気候変動について、EUレベルで非常に強い態度がとられ、50年を視野に入れた欧州の脱炭素化目標を定めたグリーン・ディールの採択に反映された。この非常に野心的な目標には、大規模な改革、莫大な水準での投資、革新と適応のための多大な努力が含まれている。

新型コロナウイルスのまん延時期には、経済的・社会的、そしてそれだけではないさまざまな

欧州とわが国の経済に関する経営コンサルスの私見

ルーマニアから(上)

活動に強い偏重をもたらした。しかし、それは仕事と生活に対する新しい取り組みを導入し、仕事をする上でより自由を与え、新技術の活用を加速させたが、人間同士の直接的なコミュニケーションを減らすという大きな代償を伴った。

私は、AIを人工知能ではなく、拡張知能と呼びたい。AIは各種ツールのセットであり、意思決定者ではないからだが、AIが人類を滅ぼすとは思っていない。SF映画が未来を淡く映し出しているように見えたとしても、2年以上前から始まったウクライナにおける戦争は、本当に衝撃的だった。私たちは、人類は知能を世界の発展に用い、地球の重要な問題を解決し、すべての人々の生活水準を向上させ、共同して明るい未来を模索する知恵に到達せると信じていたが、この2年間に、めったに見られないほどの人類の顔が現れた。

欧州では、個々の問題で解決策を見いだすときには、その解決策はすべての加盟国に受け入れられるものでなければならぬが、それは実際困難である。

つい最近の中東での出来事は、多数の国々の人々の反応を決定づけただけでなく、アジアとヨーロッパの双方の商業ルートを妨げ、より困難なものにした。紅海は主要な輸送通路であり、コスト増やサプライチェーンを長くし、多くの不確実性を生み、経済的に強い影響を与えた。

ウクライナ戦争に端を発したエネルギー危機は、中東紛争などの他の要因とともに、ユーロ圏で長期間にわたって

記録されたことのないインフレを全欧州で引き起こした。旧東欧諸国は、市場経済への移行後の改革により、1990年代初頭には「良い」インフレに直面したが、この20年は状況が落ち着き、経済成長も良好で、場合によっては非常に良好であった。

英国のEU離脱(有名なブレグジット)はEU経済に影響を与えたが、悲観論者が当初予測したほどではなく、他の重要な要因によって実際の影響は薄められた。

【ワタリ・カイエン元CMCI(国際コンサルティング協会)評議会 会長、リーム中産連】

(月曜日に掲載)